

# 地域経済と人口移動の動向分析 — 釧路地域との愛着度や関係性を考慮した研究

釧路公立大学 下山ゼミ

尾矢龍次 佐々木真帆 下元直樹  
棚沢拓也 築舘亮 清水石卓也

# プレゼンテーションの流れ

1. 釧路の転出理由と地元志向
2. 研究対象と先行研究
3. 大学生の実態調査
4. 就職に関する要因分析
5. 政策提言

# 1. 釧路の転出理由と地元志向

## <人口動態(どの年代が転出しているのか)>

	釧路市	札幌市	函館市	旭川市	室蘭市	帯広市	北見市
2010年人口	181,144	1,908,321	278,516	345,466	94,462	168,056	125,357
0～4歳→5～9歳	-317	923	-116	-118	-26	-309	-115
5～9歳→10～14歳	-432	9,460	112	-930	411	-201	-405
10～14歳→15～19歳	-204	8,617	-3,267	-3,458	878	-807	-675
<b>15～19歳→20～24歳</b>	<b>-2,174</b>	<b>-8,917</b>	<b>-1,677</b>	<b>-536</b>	<b>-1,271</b>	<b>358</b>	<b>-1,026</b>
20～24歳→25～29歳	-997	-1,433	-836	-173	-71	-321	-134
25～29歳→30～34歳	-298	490	-462	-161	-11	-313	-197
30～34歳→35～39歳	-580	1,673	-349	-107	-6	-314	-100
35～39歳→40～44歳	-476	1,913	-355	-266	-115	-65	-193
40～44歳→45～49歳	-293	11,101	-63	-42	-60	-37	14
45～49歳→50～54歳	-240	2,454	-90	-266	-155	-355	-202
50～54歳→55～59歳	-325	2,137	-82	301	-65	-162	124
55～59歳→60～64歳	-278	5,039	-43	883	-111	75	110

平成27年度 第1回釧路市まち・ひと・しごと創生支援会議 資料より引用

道内各都市において、高校生または**大学生**（15～19歳）が、**20～24歳**になる頃により多くの転出の傾向がみられる

## <人口動態(各年代での主な転出理由は何か)>

年齢階級	転出						
	回答数	1位		2位		3位	
総数	2,554	転勤	58.1%	就職等	23%	進学	8.4%
10～14歳	93	転勤	71%	進学	9.7%	育児・教育	9.7%
15～19歳	267	進学	50.9%	就職等	34.1%	転勤	10.1%
<b>20～24歳</b>	432	<b>就職等</b>	<b>75.2%</b>	転勤	10.9%	進学	7.8%
25～29歳	267	転勤	61.4%	就職等	26.6%	結婚等	6%
30～34歳	217	転勤	77.9%	就職等	9.7%	結婚等	6%
35～39歳	264	転勤	79.9%	就職等	8.7%	結婚等	3.4%
40～44歳	214	転勤	85%	就職等	4.2%	結婚等	1.9%
45～49歳	169	転勤	71.7%	進学	7.1%	就職等	5.3%
50～54歳	127	転勤	82.7%	就職等	6.3%	親族との同居	6.3%
55～59歳	92	転勤	85.9%	進学	4.3%	退職・親族との同居	3.3%
60～64歳	43	転勤・退職39.5%		退職等	23.3%	親族との同居	9.3%

平成27年度 第1回釧路市まち・ひと・しごと創生支援会議 資料より引用

大学生（20～24歳）の転出理由で、  
最も大きな割合を占めているのは**就職**である

# 釧路地域の場合

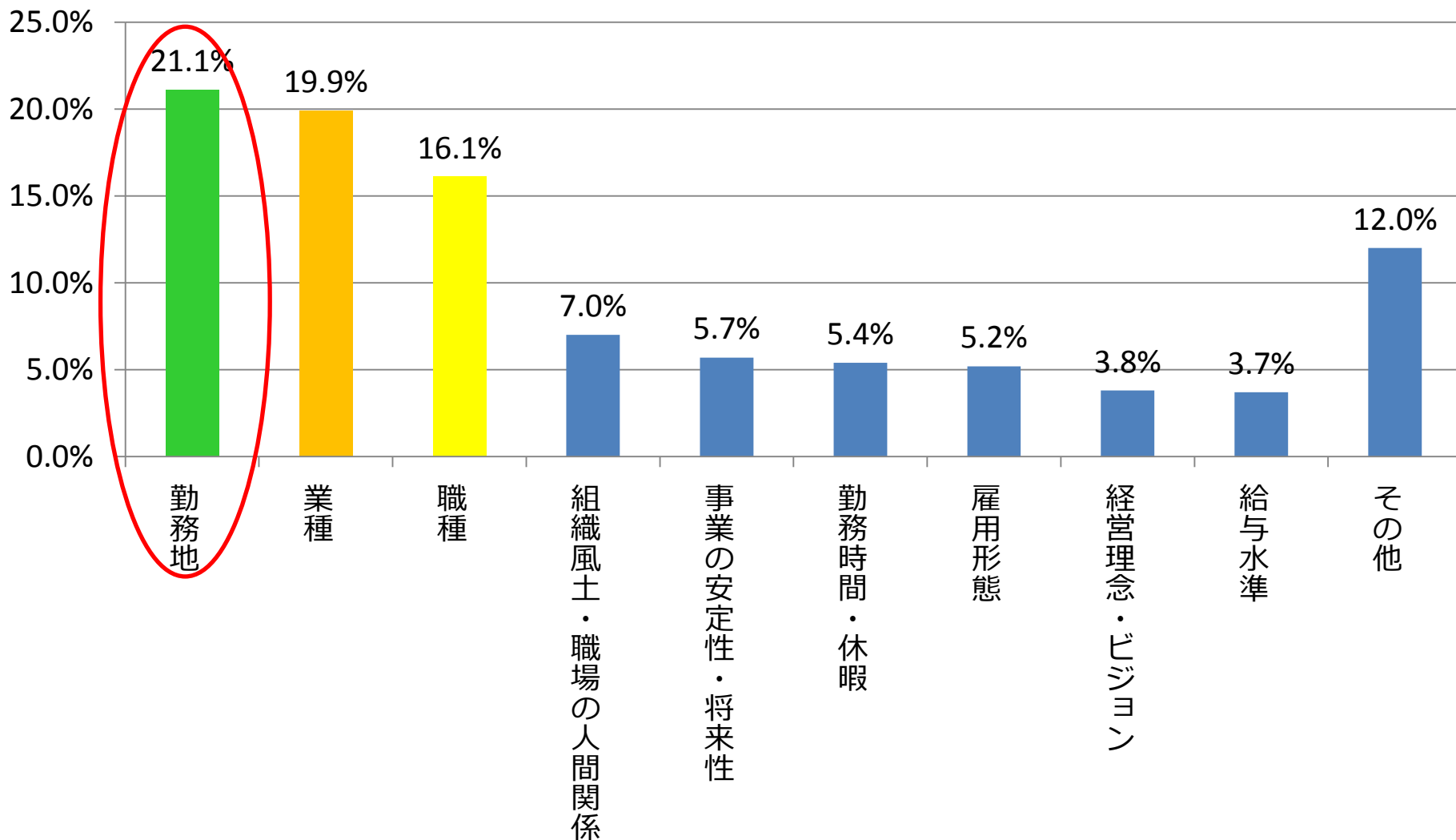


釧路地域の人口は…

**減少し続けている！**

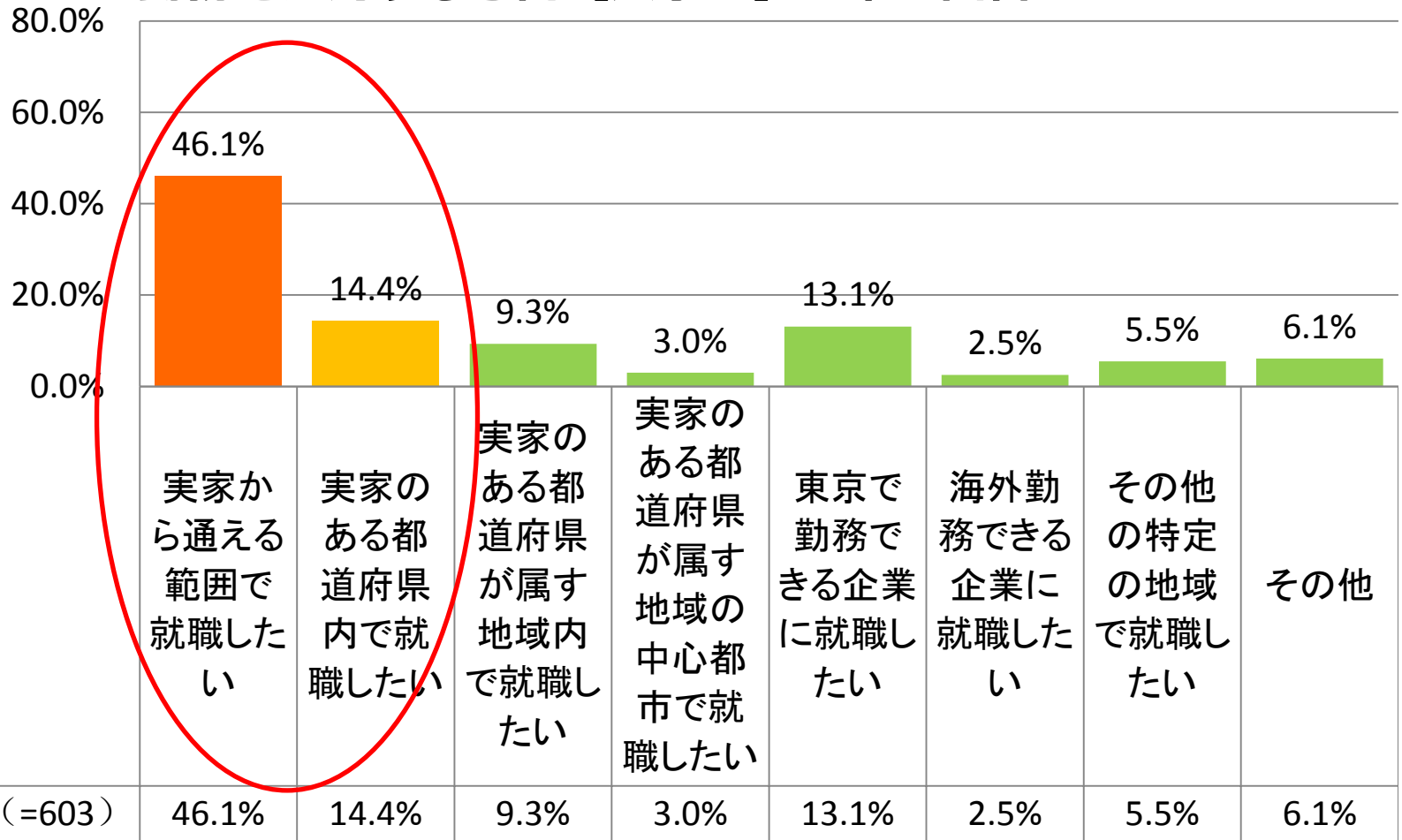
## <大学生は就職先をどんな理由で選んでいるのか>

就職開始当初、志望する就職先を選ぶ際に最も重視したこと



## <勤務地の内訳>

### 勤務地に対する志向【大学生】 単一回答



公益社団法人全国求人情報協会 2014年卒業生の就職活動の実態に関する調査 より引用

大学生は**地元志向**が強い！

## ～問題意識～

釧路地域における若者の人口減少を補完するために、大学生の就職をきっかけとした転出の要因に注目していきます！





## 2. 研究対象と先行研究

	釧路公立大学	教育大学釧路校
就職	主に 金融・保険、サービス、 運輸・情報通信、小売り、 などの <u>一般企業</u>	主に 小学校教員、中学校教員、 高等学校教員、特別支援 学校教員、などの <u>教員</u>
進学	大 学 院	

大学生の人口移動は大きく分けて「就職」と「進学」があり  
就職分野で「一般企業」の割合が多い釧路公立大学を対象とした

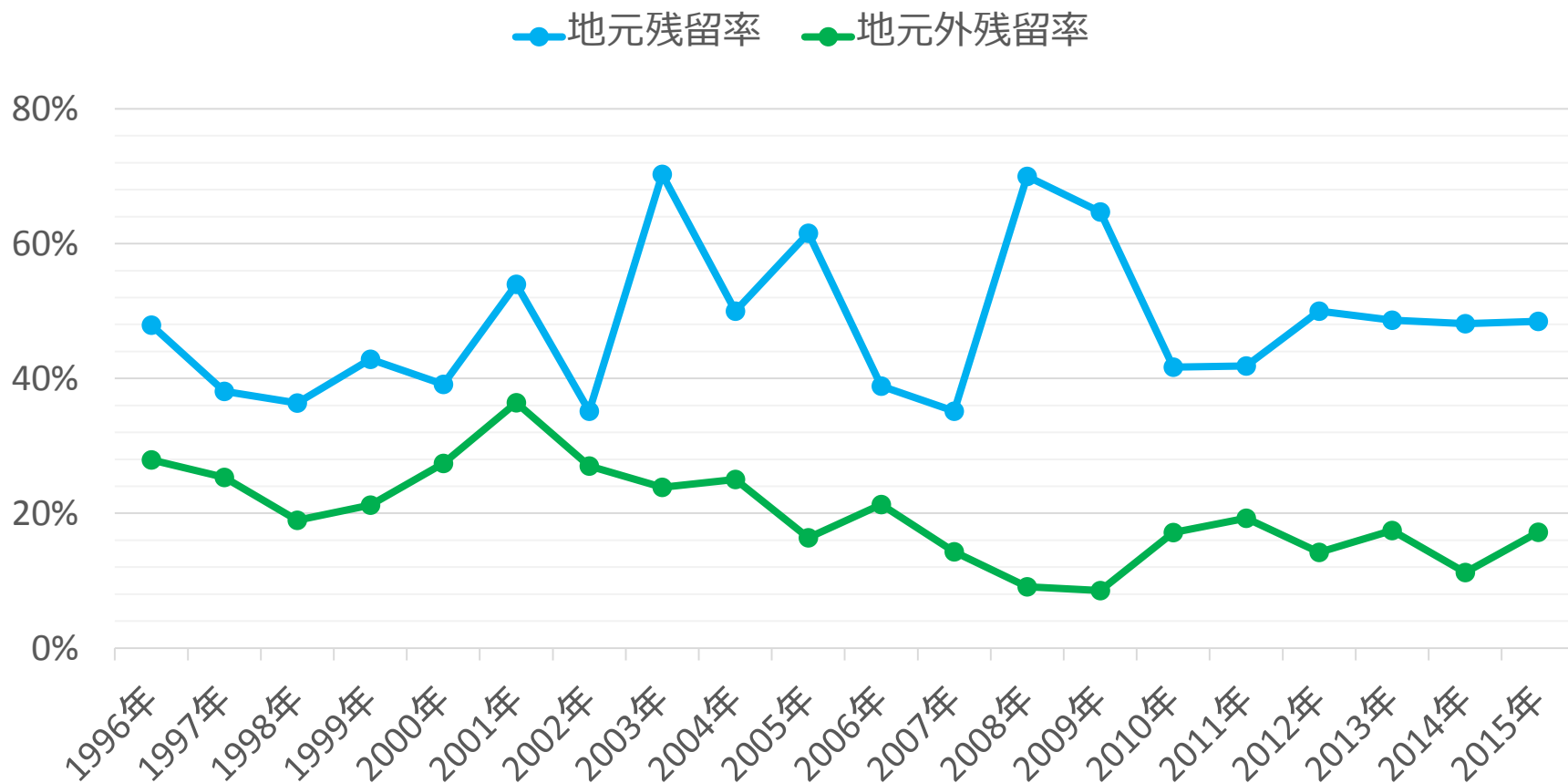
## <地元志向と愛着>

「地元志向」または「地元意識」とは、社会学小辞典（2006）によると、一定の地域の住民が、風土や伝統的慣習への愛着から、その地域と住民に抱いている帰属意識（小林・立木 2011）

地元志向の背景には地元への肯定的な感情が基礎にあり、地元志向に影響するものとして地元への愛着と地元貢献度があげられる（杉山 2012）

「地元志向」 = 地元に対する愛着のことである！

## < 釧路公立大学の卒業生データ >



釧路公立大学卒業生データ より作成

**地元残留率**：釧路地域出身の人が釧路地域に残る割合

**地元外残留率**：釧路地域出身でない人が釧路地域に残る割合

## <地元志向と愛着>

人々は地域に対する肯定的な認知から**地域に対する肯定的な印象**を形成し、その印象が**愛着を形成する**。(引地・青木 2005)

居住地への愛着に影響を及ぼす要因として、**地域と接する時間や機会**が大きな要因になり得る。(槇野・浜田・大野 2001)

愛着形成の心理的過程の研究はなされているが、**「愛着」** そのものは定量的に明らかにされていない！



地元志向と密接に関わる **「愛着」** を明らかにする必要がある

### 3.大学生の実態調査

釧路公立大学4年生を対象にアンケート調査を行いました！

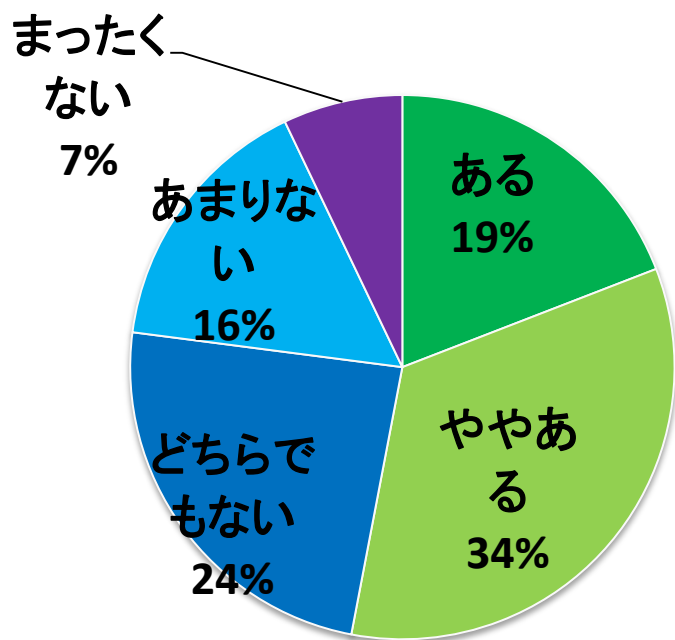
#### 目的:

1. 釧路公立大学生の**就職先決定要因**を明らかにする！
2. 地元志向の重要な要素である「**愛着**」の構成要素を明確化する！

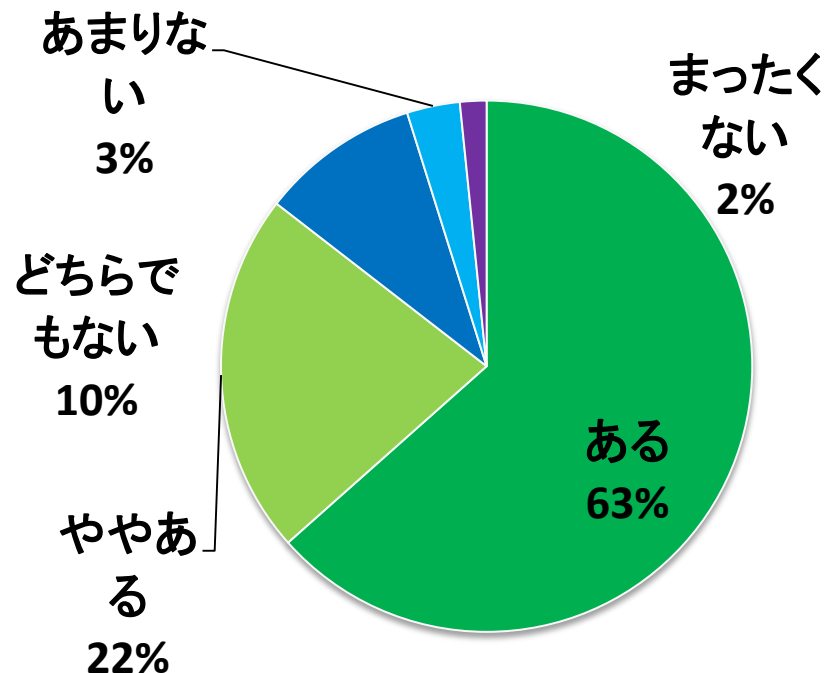
#### ～アンケート概要～

調査方法：	手配り
調査対象：	釧路公立大学4年生
調査期間：	11月1日～11月18日
<b>サンプル数/配布数：</b>	<b>206/260（4年学生総数329名うち休学9名）</b>
主なアンケート項目：	①性別、年齢、出身地域 ②就職先の勤務地、決定要因、勤務地の自由選択 ③友人・知人数、土地勘、道内の他地域への印象 ④出身地域と釧路地域の比較 ⑤釧路地域への居住意向とその理由

## 釧路地域の愛着度



## 出身地域の愛着度

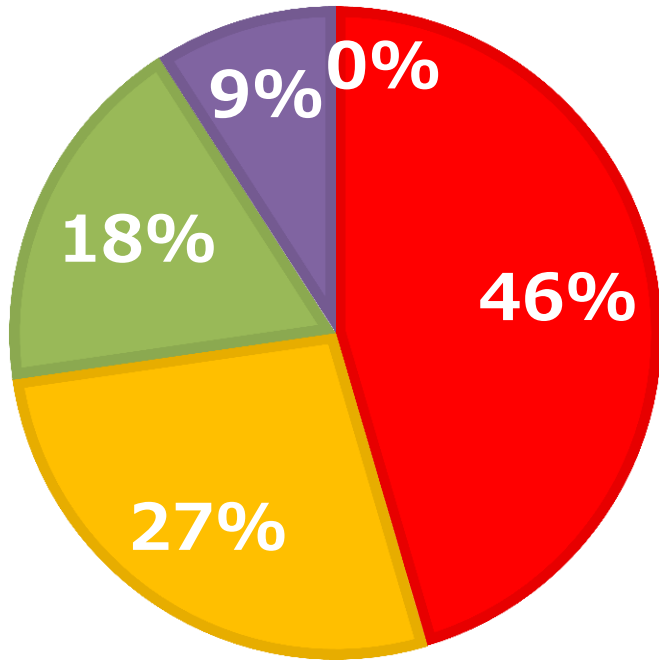


出身地域と比較すると少ないものの、  
53%の釧路公立大学生は釧路地域に対して愛着を抱いている

# < 釧路地域に就職する人、就職しない人、どこに差があるのか >

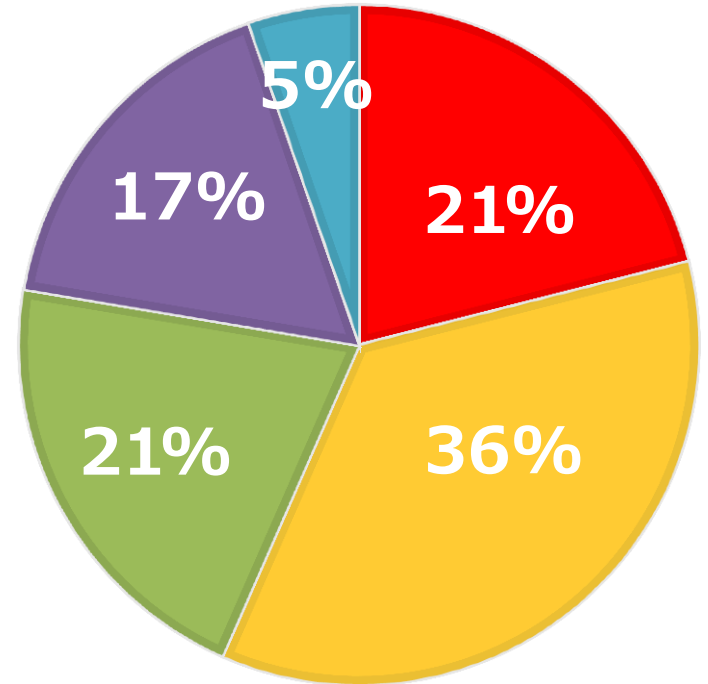
## 釧路に就職する人

- 5愛着がある
- 4やや愛着がある
- 3どちらでもない
- 2あまり愛着がない
- 1まったく愛着がない



## 釧路に就職しない人

- 5愛着がある
- 4やや愛着がある
- 3どちらでもない
- 2あまり愛着がない
- 1まったく愛着がない



釧路に就職する人のほうが釧路に愛着を抱いている人が多い

## 検討方法

釧路公立大学生の釧路への就職要因（業種、職種、賃金、福利厚生、休暇、地元志向、愛着等）を3つのプロセスに分けて検討し、その一つ一つの要因をする。

愛着がなければ地元地域へと戻ってしまう ⇒ 「愛着要因」

住みたいと思うものがなければ住み続けられない ⇒ 「居住要因」

就職できる場所がなければ釧路に残れない ⇒ 「就職可能性要因」

釧路への就職者数 =  
(9人)

60%

10.2%

55%

釧路への就職者数

居注意欲

愛着がある

釧路公立大学生

居注意欲

愛着がある

釧路公立大学生



## 4.就職に関する要因分析

適用すべき解析手法は、**分析目的**と**データタイプ**の2つで決まります。

原因		結果	
		量的データ	質的データ
説明変数	量的データ	重回帰分析	<b>ロジスティック回帰分析</b>
	質的データ	数量化Ⅰ類	数量化Ⅱ類

ロジスティック回帰分析とは・・・

量的データから質的データを予測しますが、予測する変数の値（1か0かなど）を予測するのではなく、目的変数が1となる確率を予測します。目的変数として、反応する/反応しないのデータがあり、それをいくつかの量的説明変数で予測をしようとする場合、どの人かどの程度の確率で反応するかという予測ができます。

# 愛着要因

ロジット法による推定結果

観測値の数  
対数尤度

Yが1の観測値数 92  
-59.38

変数	オッズ比	標準誤差	t値
定数項		1.09	-1.96
X2性別	1.95	0.49	1.37
X3地図なしで移動できる場所の数	4.02	1.01	1.37
X4自然が豊か	1.01	0.56	0.02
X5レジャー施設・公園などがある	1.30	0.65	0.40
X6祭り、イベントがある	3.07	0.57	<b>1.96*</b>
X7歴史人物、著名人、歴史建造物がある	2.81	1.21	0.85
X8お土産や地域産品がある	0.36	0.56	-1.83
X9食事がおいしい	2.99	0.55	<b>2.00**</b>
X10人の良さやおもてなしがよい	5.41	0.89	<b>1.90*</b>
X11地域を代表する産業や企業がある	0.37	0.78	-1.27
X12ショッピングスポットがある	6.84	1.14	1.69
X13治安や防災がしっかりしている	*****	756.97	0.02
X14恋人	0.54	1.17	-0.52
X15友人・知人数(21~30人)	<b>3.85</b>	0.64	<b>2.11**</b>

「友人関係の充実」と関連付けられるのが、「若者の地元志向」だ。著者は「『地元』が評価されるのは物理的立地や機能性よりも人間関係、なかでも『友達との関係が重要』なためであり、その土台となっている地域に対して愛着を持っている」と読む。「地元志向」は「友人志向」の表れなのである。

(学研・進学情報: 2013年4月号)

## 大学生活の重点

	1995年	2000年	2005年	2010年	2014年
勉強や研究を第一においた生活	17.4	24.0	28.4	26	27.4
自分の趣味を第一においた生活	14.9	9.7	6.9	9.2	10.4
よき友を得たり、豊かな人間関係を結ぶことを第一においた生活	24.3	19.2	17.1	13	12.3
アルバイトを第一においた生活	2.9	2	2.3	2.5	2.8
重点を置かずほどほどの生活	15.8	21.4	20.9	21.5	21.2
その他	1.5	1.7	1.2	0.2	0.3

(第50回学生生活実態調査の概要報告 より抜粋)

地域への愛着形成を促すには景観整備や**イベント・祭り**などを積極的に実行するとともに、道徳的な教育の強化、日々の行政の評価の向上などに努めることが必要であるといえる。(引地・青木 2005)

友人たちと地域に根付いた文化に触れあうことができるように働きかけることで転入者の**地域への愛着**を築くことを提案する。地域に根付いた文化とは、たとえば**祭りである**。(那須・望月 2012)

「祭り・イベント」などは**愛着形成**に大きく影響する

# 居住要因

ロジット法による推定結果

観測値の数	Yが1の観測値数	123
対数尤度	-85.11	

変数	オッズ比	標準誤差	t値
定数項		0.57	2.08
X2 自然が豊か	0.56	0.46	-1.25
X3 食事がおいしい	0.68	0.41	-0.95
X4 地域を代表する産業や企業がある	<b>3.80</b>	0.65	<b>2.04**</b>
X5 釧路市出身ダミー変数	1.58	0.82	0.56
X6 地図なしで移動できる場所の数	2.46	0.78	1.15

地域の経済状況が悪いということは、**住民の生活が困難な状況**だということである。

**地域の経済は住民の生活に直接関係しているものである。**

労働者の減少・雇用の問題・消費低迷などは、地域経済に直接的に影響する。地域経済が衰退することにより、住民は安心・安定する生活を送ることができなくなる。**将来に不安を感じるようになるのだ。**

中央大学 横山彰研究会 産業分科会

地域産業

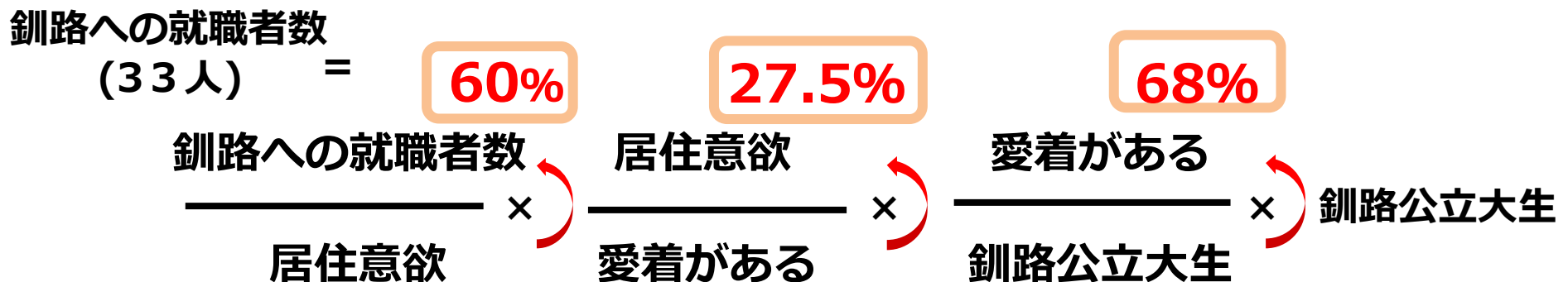
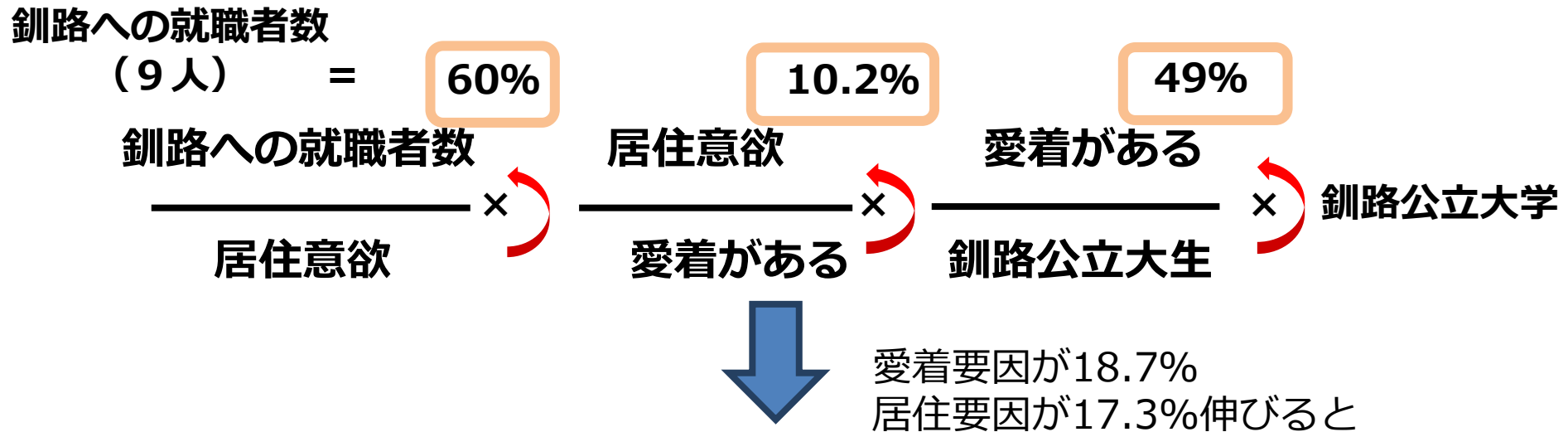
地域経済

住みやすさ

# <愛着要因・居住要因を上げるとどう変わるのか？>

各要因に対してのアンケートでの比率を見てみると・・・

※ ( ) の数は実数です。



就業者数で言うと約24人増加し、約3倍に増えた！

## 5.政策提言

### 愛着要因

①ビアガーデンを愛国など**近くで開催**し、5人の席を5組用意することで25人の人と交流できるような工夫。  
さらに、**地域の人たちとかがわる機会**も生まれるため、釧路の**人の良さ**を実感することができる。

②祭りやイベントの期間に**臨時無料のバス**を出すことで、祭りの開催場所まで行く足がない大学生が祭りに行きやすくする。（アクセス面の改善）



## 居住要因

### 長期有償インターンシップとは

長期有償インターンシップの最大の特徴は、企業で働くことを本当の意味で体感できることである。

つまり、学生はお客様ではなく成果を出すことを期待されるメンバーということになり、結果として、お金をもらいながら成長することができる。働く経験を通じて、自分のやりたいことが鮮明になっていくことが期待される。

Jobweb長期実践型インターンシップ より引用

「長期有償インターンシップ」により学生の**労働意欲が上昇**し、また、実際の仕事を体験することで、「**雇用のミスマッチ**」をなくし大学生の**早期退社**も防げる！

# 政策提言一まとめ

愛着を形成

① 二十**五**人以上の釧路地域の友人を作る取り組み

② 金太**郎**飴的ではない「わかもの」「よそもの」が  
参加しやすい祭り・イベントの開催

③ 産官学一**丸**となった

居注意欲を形成

地域型インターンシップの開催

☆大切なポイント

これらに**代表**される取り組み、政策を単発で終わらせてはいけない

目標に向けて、一連の繋がった行動・・・「ルーティン」化すべき

=くしろ方式

## 今後の研究課題

- ・ アンケート調査項目の改善
- ・ 分析手法の見直し
- ・ 釧路公立大学生のみではなく教育大学釧路校なども加えた釧路地域全体を調査対象とすること

## 参考文献

- ・小林里佳、立木茂雄（2011）「大学生の就職活動時における地元志向——都市部にある大学に通う学生を事例に」
- ・杉山成（2012）「大学生における地元志向意識とキャリア発達」『小樽商科大学学術成果コレクション』
- ・濱嶋朗、竹内郁郎、石川晃弘（2006）『社会学小辞典〔新版増補版〕』有斐閣
- ・那須弘基、望月俊男（2012）「転校生の転入地への地域愛着醸成のプロセスに関する研究」専修大学
- ・引地 博之、青木 俊明（2005）「地域に対する愛着形成の心理過程の検討」『景観・デザイン研究講演集』
- ・槇野光聰、添田昌志、大野隆造（2001）「地域に関する情報が居住地への愛着形成に与える影響」『日本建築学会大会学術講演梗概集』

## 参考資料

- ・釧路公立大学 卒業生データ
- ・公益社団法人全国求人情報協会 2014年卒業生の就職活動の実態に関する調査  
<http://www.zenkyukyo.or.jp/outline/houkoku/004.pdf>
- ・住民基本台帳年報  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/900brr/index2.htm>
- ・平成27年度 第1回釧路市まち・ひと・しごと創生支援会議 資料  
<https://www.city.kushiro.lg.jp/common/000078609.pdf>
- ・マイナビ採用サポネット 2016卒マイナビ大学生Uターン・地元就職に関する調査（2015）  
[http://saponet.mynavi.jp/enq\\_gakusei/uturn/](http://saponet.mynavi.jp/enq_gakusei/uturn/)